

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	高校における語彙指導に関する一工夫
Author(s)	山本, 和夫
Citation	ニダバ, 2 : 101 - 102
Issue Date	1973-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00044699
Right	
Relation	



高校における語彙指導に関する一工夫

島根県立松江北高校 山本和夫

英語学習者のもつ悩みの一つに語彙不足がある。大学入試に必要な語彙数は6,000語であるなどと言われる。中学校で修得する語彙数は1,300語ぐらいという。大学入試に必要な語彙数が6,000語であるということの根拠はいずれにあるかは解らないが、兎に角中学を卒業して大学の入試を受けるまでの間に修得すべき語彙数はかなりのものであるのは事実である。

我々高校教師は言葉の機能面には、かなりの関心を持ちながら、一方では生徒は多くの言葉を覚えなければならないという単純な事実を案外忘れてはいはしまいか。語彙は数多くの書物を読めば自然に殖えるという説がある。恐らくこの説は正しい。然し限られた時間内に急速に語彙数を殖やすことを目的とした場合、この説はあまりにも悠長に過ぎる。限られた時間内に多くの書物を読むことは不可能であるし、又、語彙数が不足していることを悩みとする者にスピードを持って書物を読むことを期待するのも無理な話である。学校では教科書その他で出てくる単語のテストを行なっている。然し、筆者はもう少し積極的な語彙指導の方法があるのではないかと考える。

(I) 語源からの指導

我々が「放談」「放置」「放逐」「放課」等の漢語を見た場合、これらの言葉の中に共通したある意味を読むはずである。これは勿論「放」という字が共通に使われているからであり、その字が一定の意味を持っているからである。

英米人がflow、fluent、fluid、flood、influence等の言葉を見た場合、我々が上の漢語を見た場合と同じような物の読み方をしないだろうか。もし欧米語に表意文字が存在するとすれば、上にあげた各語のある部分は全く同じ文字が使用される可能性はないか。もし仮りにそのようなことがあって、共通の文字が使用されているとしたら、我々はこれらの各言葉を覚えることは、はるかに易しいと思うにちがいない。又、これらの中でどれか一つ知らない言葉があったとした場合、その言葉の意味を察することができるのではなからうか。ところが現実はどうだろうか。我々はこれらの言葉を無関係に、ばらばらに覚えている場合が多い。fluentからfluencyは覚えるがflowとの関係は知らない。恐らくfluidという語を知らない高校生が多いであろう。筆者が主張したいのは案外盲点になっているこの横の関連をもっと積極的に利用して、語彙指導をすることである。場

合によっては、一連の言葉を一時に全部覚えさすことである。そのような言葉の覚えさせ方には危険があるという反論があるかもしれぬ。何故ならば、一つの単語の持つ意味は複数であるし、又、実際の文章の中で使われている言葉で教えなければ、運用方法等を正しく理解させることはできないからと。これらの反論はもっともだと思ふ。が、筆者は次のように考える。たしかに一つの単語を辞書で引いて見た場合ほとんど複数の意味が書いてある。然し、それら複数ある訳語には共通した意義素のようなものがあるはずである。ある場合には、単に言い変えに過ぎないだろうし、又、ある場合には、ある意味から他の意味に転用されたり、特殊化されたりしているだろう。筆者はこの何か、もやもやした意義素とでも言うものを理解することが重要だと考えている。

言葉の意味は固定しているのではなく、生きて動いているのだから、むしろ基本にある意味を把握するといった態度が正しいと考える。

(II) 和英辞典を利用する方法

生徒に言葉を教える場合にも、我々がかれらの意識を無視してはならぬ。例えば、「安保条約」という言葉を見た場合、かれらは非常に高い反応を示すにちがいない。それでは、「安保条約」という単語を英語で教えてみてはどうか。ところがこの種の言葉は高校3年間を通じて一度も教科書には出てこない。そこで利用してみたいのは和英辞典である。かれらは、日本語でならかなり高度の単語を知っており、関心度の高い単語を英語ではどういふかを知りたい気持を持っている。「安保条約」が解ったら「軍事同盟」というような単語を引かせてみる。そして関連のある言葉を一つにまとめてノートに書かせてみるのもよからうと思ふ。

3年生の教科書に finch (ひわ), owl (鳥) という鳥の名前が出て来た。生徒はそれらの単語は覚えるであろう。然し、finch (ひわ) という鳥の名を覚えるなら、stork (こうの鳥)、crane (つる)、dove (はと) などを覚えていけないという理由はないはずである。実は鳥の名前などは一緒に覚えてしまう方が能率的だと思われる。

人間は心理的に統一的知識を求めるものである。政治に関する言葉、天候に関する言葉、天文用語、魚の名前、植物の名前、動物の名前、運動に関する動詞……等を項目別に調べさすのは面白い試みだと思ふ。